

2020年4月入職

しがえり
志賀栄里

食の喜びが、日々の癒しになるように

可能な限り、「ダメ」と言わない

食を通して得られる喜びは人生の大きなウェイトを占めており、私自身も食べることが大好きです。同じように感じている患者さまもたくさんいらっしゃるのですが、透析治療において食事制限は避けて通れない道です。入院されている患者さまは病院側で食事をコントロールできますが、外来の患者さまは選択肢がたくさんあるがゆえに、食事について悩む場面が多いと感じていました。そのような患者さまに寄り添い、少しでも食を楽しんでいただきたいと思ったことが、今の仕事を選んだ理由です。

私が心がけているのは、患者さまのご要望を可能な限り受け止めることです。もちろん管理栄養士としての理想はありますが、押し付けてはいけません。患者さまお一人おひとりの背景を考慮した上で、なるべくポジティブな方向に話を進めることが大切です。生きていれば、絶対に譲れないこだわりは誰にでもあるもの。もちろん症状に影響が出るようであればストップをかけますが、データに問題がなければ、「食べてもいいですが、今よりも量を減らしましょう」といった前向きな提案につなげています。

患者さまが望む距離感は、人それぞれにちがう



思いやりエキスパートの研修を通して得られた一番の気付きは、すべての患者さまに対して均一に接する必要はないということでした。患者さまの中には、積極的に話を聞いて欲しい方もいれば、そっとしておいて欲しい方もいらっしゃいます。後者の患者さまに対して踏み込みすぎるのは逆効果になりかねません。研修以降は、個々のニーズに合わせたサービスの提供を意識するようになりました。

患者さまが望む距離感で接するようにしていると、患者さまから相談を持ちかけてくださることも増えます。この前も患者さまから、「カリウムの数値が上がったけれど原因が分からない」というご質問があり、普段の食生活について詳しくお伺いすると、青汁をよく召し上がっていらっしゃることに気付きました。体に良いと思って召し上がっていたそうなのですが、青汁にはカリウムが多く含まれており、体に溜まると不整脈を起こす可能性があります。摂取回数を減らすようにご提案したところ、次の訪問時には数値が下がっており、感謝の言葉をいただきました。私が目指しているのは患者さまのお気持ちを含め、さまざまな視点から物事を捉えられる栄養士になること。理想に向かって研鑽を重ねる中で、思いやりエキスパートに選ばれたことは間違いなくプラスになっています。



患者さまの不安を
安心に変えられるよう、
いつも笑顔で寄り添います。

志賀 栄里